

## エネルギー問題は水晶が解決する

品川次郎

水晶玉から高周波の電磁エネルギーが得られるといっても、現代の科学的常識からは信じられないだろう。ところが現実には水晶玉から高周波電磁エネルギーが湧き出るのを私は何度も確認した。ただ、技術が未熟で何時でも出すことが出来ない。

エネルギーの法則に反するような話には耳を傾けない人も多いと思うが、自然界にはエネルギー不滅の法則に反することもあると思う。ブラックホールはエネルギーを無限に吸い込んでいると思われているが不思議である。私見だがこのエネルギーはゼロ点エネルギーとして還流し空間各点に潜在していると思う。水晶玉はこのゼロ点エネルギーを利用しているのである。

たしかに、科学はこの 200 年位で急速な進歩を遂げたので多くの科学者は慢心に近い自信から自分が信じられない現象には耳を傾けようとしなない。しかし、宇宙の進歩した星から見ればまだ地球の科学文明はほんの序の口であると云っていいと思う。

水晶玉から高周波の電磁エネルギーが出るというのは S 字共振と言う現象である。

30年ほど前、私はこの言葉を宇和島におられる清家新一氏の書かれたもので「地球人はまだ S 字共振を知らない」という宇宙人情報で知ったのである。これを読んだ瞬間、「UFOの秘密はここにある！」と思った。電磁共振現象はよく知られているがそれはある意味で S 字共振の半分の現象であると思う。電気の法則の根源には電磁エネルギーの流れを支配する法則、ポインティングの法則と呼ばれ法則がある。それは右回り右ネジの法則である。光も電波と同じ電磁気の波動だから我々の空間は右ネジ電磁空間であると言える。何故なら、空間の広がりや光によって知るから空間は光それ自体と言えるからである。空間を光が進行してそれを観測している人が多いがそうではなく光自体が我々の感覚する空間である。電磁場そのものが空間であり、そこに、ゼロ点エネルギーとしてあらゆる周波数の電磁場エネルギーがみなぎっているのである。このように我々が住む現実の空間は右ネジの電磁法則の世界だが、この法則に対して反対の左ネジ法則（別の左ネジポインティング法則）の存在が仮定できる。即ち、我々の空間の奥にはその様な対称的な

左ネジ電磁空間があると予想できる。その逆の電磁共振と普通の電磁共振が一体に繋がったのが S 字共振である。S の字は右回りと左回りが繋がった形であるからである。

水晶球からエネルギーが湧き出ると云うことは逆電磁法則の空間が現実存在している証明でもある。つまりこのことは、あの世、いわゆる霊界が現に存在していることである。

しかし、理論というものはいくら正しくとも多くの人々に理解してもらえない。実験で目の当たりに証明をする他ないと思い、25 年ほど前から水晶玉による S 字共振実現の研究を始めたのである。

水晶玉は昔から、占い師などが用い、不思議な力がある。アメリカの有名な女性予言者、故ジーン・ディクソンは少女時代から水晶玉予言者として有名で、とくに、青年大統領ケネディの出現とその悲劇的な死を早くから予言していた。

水晶玉をみて予言が出来ると云うことは、超能力があるにせよ水晶玉があこの世の情報をこの世につなぐ物理的チャンネルであることだと思ふ。この場合、そこに超能力が媒介しているが、それを科学技術と置き換えることが出来ないだろうか？ 水晶玉はこの世でも一つのレンズであるがそれはあの世の側面から、つまり、逆

ネジの電磁的世界でもレンズであるに違いない。超能力者はそのレンズに依ってあの世の情報をこちら側のレンズへ光の情報として伝えていると思われる。つまり水晶玉はあの世のエネルギーをこちらのエネルギーに変える物理的チャンネルである。

この場合、情報エネルギーなのでエネルギーの大きさは小さいかもしれない。しかし、水晶玉の共振現象ともなればエネルギーが大きな値になる可能性がある。S字は無量大のにも通じる。S字共振とは無限に継続する共振現象だろう。宇宙人はこのS字共振を利用しているのは間違い違いないと思った。

現在、時計に使われる水晶振動子は立方体だが、球状の水晶も電氣的に共振する。また、逆電磁界の側面でもそれは逆の電磁振動体であるに違いなく、それとこちらの電磁振動とが一体となり繋がれば、これは正にS字共振現象ということになる。この共振周波数は光領域より周波数の低い振動領域だがこの性質があるに違いなく、水晶球の中心にはあの世とこの世の電気をつなぐ正逆のネジ法則の電磁パワーの連絡点があるに違いないと思った。水晶玉の電氣的性質を調べていけば必ず何かヒントになるものが出てくる筈と研究を始めたのは1980年頃だった。



宮内力先生



北野恵宝師

それより少し前のことだったと思うが、親しくさせて頂いていた念写研究家の故宮内力先生のかねてからの知り合いである姫路の真言宗のお寺の北野恵宝師が、深夜、数名のUFOの乗組員に訪問され種々の情報を受けたと云う、飛んでもないニュースが週刊誌に出た。早速、二人で姫路に行くことにした。恵宝師は若いとき、福来友吉博士の念写実験のお手伝いをしたことがあった。福来博士のことはよくテレビ番組で紹介されているが、世界に先駆け念写現象を発見された方で、それをインチキ呼ばりされ、終に、東京帝国大学を追われた方である。又、恵宝師は博士の勧めで原始仏教の源流に触れるため、当時、殆ど僅かの日本人しか行ったことのないチベットで過酷な修行をされた方である。宮内先生は福来博士の遺業の正しさを世に訴えるため、自ら念写協会を創設し、現代の念写能力者の実験をする傍ら、念写理論の物理学的究明に没頭されておられた

ので、元々、連絡をとっていた間柄であった。たまたま、宮内式念  
写実験用改造ポラロイドカメラがほしいと師から依頼されていたの  
で、それを携えて出かけていった。

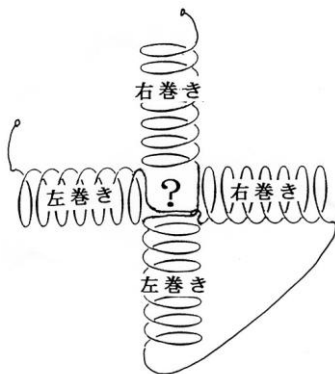
恵宝師の話を思い出すまま書くことにする。広島にいるお弟子さ  
んの山寺に避暑がてら泊まりに行かれたときのことである。真夜中、  
「友よ、友よ」という呼び声で目が醒めたら室内が真昼のように明  
るい。空から強烈な光線で照らされているらしい。UFOらしい物  
体が見えたが、すぐ山の向こうに見えなくなった。やがて、ドイツ  
人的風貌の背の高い数人の宇宙人の訪問を受けた。それまで、U  
F  
Oなど子供の絵空ごととしか思っていなかった師は、それこそ、び  
っくり仰天であった。それから二時間近くにわたって地球でこれか  
ら起こる事件の予言、公害に対する注意、例えば、コンコルドのよ  
うな成層圏を飛ぶ旅客機は地球の気候に救い難い悪影響を与えるか  
ら絶対阻止しなければならぬこと等を教えてくれた。また、宇宙語  
の長々としたお経のような文句を書き取るように云われてそれに長  
時間掛かったそうである。 予言のひとつにバングラディシュのラ  
ーマンの暗殺があったがそれは間もなく現実となった記憶がある。  
私にとって最も感激的だったことは、彼等は直径30ミリ位の緑色

の玉を見せて、我々はこの水晶玉を利用して飛んで来たと言ったということであった。宮内先生には、かねてからこの考えを伝えてあったので驚かれた。緑色に見えたのは金を極めて薄くコートしてあった為と思う。

アダムスキー型といわれるUFOの下部には着陸ギアと呼ばれている三つの球がある。これは、おそらく、このパワーを引き出す電氣的空洞共振キャビティであると思った。キャビティはラジオのコイルとバリコンの共振回路と原理的に同じものである。球型キャビティは空洞共振器の中でも共振カーブが最も急峻さを表すQ値が高くエネルギーのタンク容量も大きい利点から使われているのだろうと想像した。そして、UFOがこの宇宙のエネルギーを水晶球とこのキャビティとを通して利用しているのは間違いないと、次第に確信に変わっていった。

1984年になって、この着陸ギア＝空洞共振器の考えを確かめる意味で、S字共振の実験を思い切って始めようかと思い始めた。球形では工作が難しいが、工作し易いパイプでも原理的には同じものが出来る筈である。その少し前のことだったが、〈波動性科学〉と云う本を出された故大橋正雄氏が地震予知器を作られたと云うので、

静岡まで見せて貰いに行ったことがあった。それは、右巻きソレノイドコイルと左巻きコイルの軸を向かい合わせにして繋ぎ計4本を十字型に配置して直列に繋いだもので、この様なコイルは地震が起こる1、2日前頃から前兆の電気振動を受信するというのである。その夜、私はこの十字コイルが水晶パワー成功に必要な考えであるとの意味を暗示する夢を見た。このコイルの配置からすると、対向同士の磁界は消し合っていて、一部、無誘導コイルになったものである。パイプ式キャビティでも大橋式無誘導コイルの考えを応用できるし、その打ち消し合った場の中に水晶玉をセットして何が起こるか確かめたいと云う思いが沸々とたぎってきた

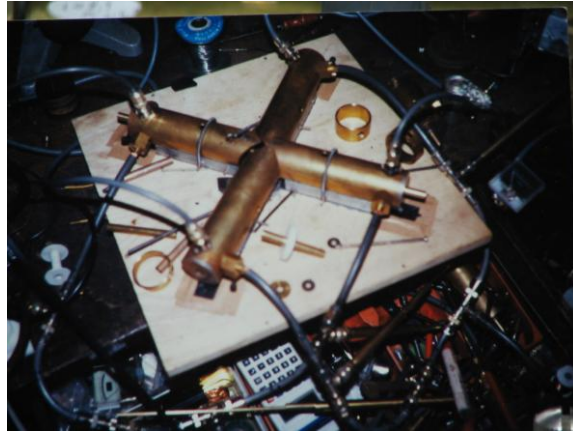


大橋コイルの説明図

1984年、夏の盛りであった。朝日を拝んでいるとき、ふと、このアイデアが頭をよぎった。瞬間、身心全体がふっ飛ばされるよう強烈なショックを受けた。「その実験を始めよ」との天の命令だと直感し感激に打ち振るえた。半ば、茫然として寝室に戻って、何気なく机を見たら、新聞配達少年がU F 0を見上げて



いる絵の表紙の本が置いてある。よく見ると、そのUFOは下面に三つの球ではなく、パイプが放射状に並んでいるではないか。まさに、自分がイメージしている構造である。サクラメントの新聞配達



少年が放  
り投げた  
新聞がU  
FOに吸  
い上げら

れた事件が載っていた。今までこんな本が家にあったことも全く知らなかった。長女に聞いたら、自分が以前買ったとのこと。しかし、私の机へ持って行った覚えはないし、ほかの家人も誰も知らない。自然に、私の机にテレポートしたとしか考えられない。さあ、すべてをこの研究に打ち込まねばという気持ちで一杯になった。色々と紆余曲折はあったが、それから9年経ち1993年の3月だった。上の写真の様な形に、先端を直角に切って尖らせた1/4波長同軸共振キャビティ4本をピタリと十字型に組んだ形の装置が完成、なにか異常現象は出ないかと模索実験を繰り返す毎日であった。直径1ミリの水晶玉

はキャビティの4本の中心導体にはさまれて中央にセットしてある。真鍮製のパイプ4本は接触面に銀ペーストでピタリと接触していて外部からは絶対と言ってよいくらい電波の入る隙間もないように作ってある。この様に同じ寸法のキャビティを組んだものは3つの周波数で共振するが、このうちの二つの周波数で十字キャビティの対向同士が上述の大橋氏の地震予知コイルと同じ様にうち消し合う振動をすることが分かった。試験信号発生器でこの一つの周波数（約430MHz）を入力して何か異常現象が起こらないかとスペアナ（スペクトラムアナライザー）を見ているときだった。その試験周波数より少し離れたところに別の周波数の電波が雑音レベルからじわじわと数センチ成長しているのではないか。と思ったら暫らくして小さくなり消えてしまった。そんな現象を何度か見付けたが思うようには出てこない。気がつくやうに短時間で消えてしまうのでスペアナの画面をビデオに撮ることにした。キャビティに電波を加えているのでそのエネルギーが玉に蓄積されて別の周波数に変換され放出する現象かなと思っていた。毎晩タイマーでビデオをセットして翌日それを調べるのが日課となった。その間、玉の姿勢（結晶の軸の方向で決まる姿勢）や考えられる条件を色々変えて試したのだが、その違い

によって出やすい条件が少し分かった。その内、試験信号発生器の出力を加えないでスペアナだけ接続して試したところ、なんと、同じ現象が起こったのである。電波が全く入る余地のない密閉十字キャビティに電波が観測されたのである。中の玉が振動して電波が発生したとしか考えられない。パワーは極めて弱い間違いなくエネルギーが出たのである。こんな現象が約三ヶ月続き 100 回以上現象を記録したが突然出なくなってしまった。

十字キャビティを水晶玉から十分なパワーとしてエネルギーが取り出せると考えられる装置に改造するのにそれから 5 年かかった。

水晶玉の研究をやり始めてから 20 年近く経っていた。そして、出来上がった装置で模索実験を繰り返す毎日であった。1998 年 11 月 4 日の夕方、十字キャビティの振動位相を、予想される水晶玉の打ち消し合い振動位相に合わせていたが、突然、オシロスコープの表示がガクンと 1、2 秒位落ちて、また、元に戻った。それは水晶玉から強力なパワーが出て保護装置のダイオードが働いた現象だったが迂闊にもそうとは思わなかった。翌日、実験を始めたら一台のオシロスコープの波形がひどく歪んでしまって用をなさない。そのオシロスコープだけは入力電圧を 10 分の 1 に落とす減衰抵抗だけでダイ

オードの保護装置が付けてなかったのである。キャビティのワンターミナルは通常 0,3 ボルト位の試験電圧でテストしていたのが、突然、S字共振現象が起こり 50 ボルト以上の電圧が発生して壊れたのである。修理代が大分掛かったが間違いなく強力なS字共振現パワーが発生したことの証明であった。このときの現象は短時間で止まったから良かったが、もっと長時間続いたら保護装置のダイオードも焼け切れて全部の測定器が壊れてしまっただろう。あとで分かったことだが、一年近く前にも同じ現象が起こっておりこの時は安全装置が全部付いていたのでS字共振が成功したのかなと思っただけで確信はなかった。いろいろ工夫したすえある程度まで電圧が成長したらキャビティのバランスを機械的に変えて現象を止めてしまう保護装置を作った。そして、翌 1999 年 4 月 7 日の夕方、実験をそろそろ止めようかなと思っていた頃だった。この装置が働きブザーが激しく鳴った。もう一度キャビティのバランスを取り直すと、又鳴り、立て続きに三回現象が起こった。もう大丈夫だ、さあ明日からはデータを取って、いよいよ、水晶パワーを連続的に取り出すのだと鬼の首でも取ったような気持ちだった。ところが、・・・である。いくら同じことを繰り返しても現象は全く起こらないので

ある。9年まえの自然現象みたいに出てきた現象と違ってこの現象はこちら側の条件を揃えてしまえば、宇宙にはエネルギーが満ちあふれていて自然にエネルギーがワッと噴出す現象だと勝手に思っていたので、装置の精密度が悪いのだろうと思って装置をより精確に作り直したりして、今度こそ、今度こそ、と模索実験を繰り返すうち3年経ってしまった。4本の同軸型キャビティの振動位相を玉の振動位相と一緒にすれば必要十分条件はクリアーしていると思い込んでいた。しかも、その予想でピタリと成功したので、長い間、疑いを挟まなかった。しかし一方、もう一つ電氣的に大切な条件を4本全部のキャビティに注意を払わずに実験をして来たことに気が付いていたが、難しくて手を付けてなかった。それは、4本のキャビティと玉の間のインピーダンス整合である。その頃、先年亡くなられた日本サイ科学会の創始者関英男先生が夢に出て来られてヒントを頂いたので、この問題も急に解決の方向へ進めることが出来た。そしてそれを、ほぼ、クリアーしたと思ったが何も変化が現れない。前2回ときは現象発現が近くなると、オシロスコープに玉が共振して反応するような前兆現象を観測したがそれも全く現れないのである。考えてみれば、10年前の100回以上出た現象はすべて裏側の

世界の意思によって現れた現象であった。裏側から水晶玉を振動させてこちらに押し出してもらった現象だったのだろう。計6回現れたS字共振も裏側からの意思で現れたのかも知れない。条件を整えたから自然に湧き出したとばかり思っていたがそうではないらしい。それならば、こちら側からはS字共振は起動することは出来ないのか。複素電磁的（小生の唱える逆ネジ法則を含めた電磁力）に水晶玉の裏側から刺激してS字共振をスタートする方法を確立して始めてこの研究は完成するのだと思うようになった。その可能性は大橋コイルと軌を一にする打ち消し巻きドーナツ型のトロイダルコイルに期待を感じていた。このコイルはコアに磁束が流れないので従来の電磁気学ではなんの意味を持たないと思われて来たが、複素電磁力を利用するには一番の近道と思った。それで、それまで以前にも何度か試みたことはあったが、何もつかむことは出来なかった。その頃、精神統一していたら、（おまえは肉を食べているではないか、それで出来ると思っているのか）、という意味のインスピレーションを頂いた。前述した本（アミ、小さな宇宙人 徳間書店）に、我々銀河系宇宙には数百万の文明を持つ星があるが、どの星の人も動物の死骸の肉を食べていて喧嘩ばかりして戦争が絶えない。UFO文

明を持つ星では肉食をしないので絶対平和である。エネルギーがただで使えるので貨幣のない理想的福祉世界に到達していると云う意味のことが書いてあった。UFOの秘密に迫ろうと意気込む本人がそれで出来るのかと指摘されたわけである。それで、決心してすぐ肉類は止めることにしたが、家族も心配するので、とりあえず魚は許してもらおう事にした。効果靚面と云っては申し訳ないが、それから20日ぐらい経って同軸ケーブルを捲いたトロイダルコイルを少しひねったことで新しい展開があった。水晶玉が反応し共振するとき今までの経験で、予兆として瞬間的にガリッと不連続的雑音を感じオシロスコープにもそれが現れるが、これが時々起こり始めたのである。この新しい方法を進めて行けば必ずS字共振が発現する希望が出てきたのである。それともう一つは、時々頭の一部にピンと痛みを感じる事が起こり始めた。それは、実験の最中にここを注意しろというときとか、この方法はしないほうが良い時とかにピンとくるのである。そうのべつ幕なしにくる訳ではないが、それを守ると良い方向にゆくので、感謝々々であった。実験を進めて行くうち、また、水晶の反応が出なくなってしまった。ところが、今度は魚も食べるなどピンときてしまった。仕方なく正真正銘のベジ

タリアンになる決心をした。実験の記録を読み返していると、ある所で例のピンがきてまた実験を正しい方向に進めることができた。指摘されたところは自分でもいずれ確かめなければならないと思いつつ、仕事が面倒なのでつい実行をしないできたことであった。そうして、到頭、2004年の1月10日2時47分、5年振りに測定器の保護装置が働いた。ついに、複素電磁氣的に水晶玉を裏側から刺激してS字共振に導くことができた。これで、万々歳という気持ちだったが、またまた、思うように玉の反応現象が現れなくなり、行き詰まってしまった。

わたしは、この10年以上、健康のため毎朝近くの公園に散歩に行くのを日課にしていたが、ヒマラヤ杉に抱きつくとも木のパワーを貰って非常に元気になるのを発見、それを毎日実行するようになっていた。針葉樹は葉に先が避雷針の様にとがっているもので、恐らく、空中のイオンを集めて幹を通してパルス電流が流れるのでパワーが貰えるらしい。抱きついて目を瞑っていると白い霧のような流れが上へ上へと昇ってゆくのが見え、1分間ほど続いて消える。不思議と体の疲れが消えてしまうのである。松の木も試して見たがその霧が赤っぽく見え、やはり効果があるようである。そのうち、座禅を



される漫画家の桑田二郎氏の本で刺激され、ヒマラヤ杉の根元で坐禅をすることを始めた。ところが、それを開始する時刻をもっと早くするようにとピンが来てしまい、暗いうちから座って日の出時間を座禅で迎えることになった。これは、かなり辛いことである。真っ暗な時間に出かけるので家族にも大きな心配を掛けてしまう。普段、早寝ではないので寝不足になってしまうことが多かったが、150日位たった頃、この修行をクリアーできた気がした。そして、実験の方も玉の反応現象がまた強く現れるようになったと思ったが、まだ、続けよとピン。一寸がっかりしてしまった。早く寝なくては駄目というストレスから入眠が難しくなり、座禅がうまく出来ないことが多くなってしまった。以前から下腹にしこりが出来ているのを知っていたが、お医者さんに診てもらって、もしも、手術にでもなり実験を休むようなことになると大変と思い、先延ばししていた。その無理が重なって遂にダウンしてしまい生まれて始めて入院をすることになってしまった。前立腺肥大による残尿過大のため腎機能不全ととなり、ひどい貧血で1年半続けたベジタリアンもドクターストップ。もう少しで危うくあの世ゆきだった。

そのうち、体力も回復したがベジタリアンも再開実行の命令のピ

ン。だんだん貧血も軽くなり健康検査数値も医者が驚く葉ほど改善された。動物性蛋白質は現代の栄養学では不可欠のように言われているがその考えが違っていることを、身を以って確認した。

色々工夫を重ねるうち、2007年には10回以上成功したが、未だ、何時でも出せる段階ではない。技術的な内容は出来るだけ詳しく別稿「水晶発電メモ」に書き残してある。年齢も85歳になってしまった。仕事も遅々として進まない。この辺で、電気会社の優秀な技術者にバトンタッチしたほうが良いのではないかと思う毎日である。